

もしもの時はクラクションを 車内置き去り想定、上峰の園児が実践

子どもがバスに置き去りにされた事態を想定した訓練が19日、上峰町のひよ子こども園かみみね(池松英治園長)であった。園児たちはクラクションを鳴らして車内から周囲に助けを求める方法や、力がなくて



お尻で押してクラクションを鳴らす園児＝上峰町のひよ子こども園かみみね

も水筒やお尻で強くクラクションを押せることを学んだ。

交通・防犯教室の一環で、園児約70人が参加した。クラクション訓練は2022年に静岡県認定こども園で園児が通園バスに取り残されて熱中症で死亡した事件をきっかけに毎年開いている。

鳥栖署員や保育教諭が「もし車の中で一人になって危険を感じたらクラクションを鳴らしましょう」と呼びかけた。代表の園児が運転席に立って両手で押し、またハンドルの上に座るようにしてクラクションを鳴らした。山崎晴斗ちゃん(6)は「手よりもお尻を使った方が簡単だった。忘れないようにしたい」と話した。

同園は通園バスはなく、園外保育で月1回程度バスを使用している。川原俊史副園長は「不定期でバスを使っているので、より注意する必要がある。子どもたちへの指導も続けていきたい」と話した。

(井手一希)

